

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>なじみのある人達と共に住みなれた所で、その人らしく安心して暮らせることを支える。</p>	○	いつも顔なじみの職員がいる。家族や知人が時々面会に来てくれて一緒に過ごす時間がある。そんな生活をさせてあげたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>家族との関係やその人その人が生きてきた過程を大切にしている。過去の話や家族の話を本人との会話に取り入れるようにしている。</p>	○	時々、生まれ育った土地に行ったり、入所まで生活していた自宅に帰ったりできたらと考えている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>家族が来られた時に理念について話をし、グループホームの取り組みを理解していただき協力をお願いしている。</p>	○	地域の集まりなどに参加させていただく機会をつくり、グループホームの取り組みを知っていただけたらと考えている。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>その方の状態や体調に合わせて、施設周辺の散歩をしている。その時出会う方に挨拶をしている。</p>	○	グループホームが3階のため、外に出る回数が少ない。できたら1日1回は外に出られるようにしたい。グループホーム周辺のマップを作る計画をしている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>2か月に1回鶴尾コミュニティーセンターで地域の方と一緒に手芸など行っている。西春日保育所と交流している。運動会などに参加している。</p>	○	今後は地区の老人会にも参加できたらいいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームの職員が中心になり、2か月に1回鶴尾コミュニティセンターで地域の方とグループホーム入居者が一緒に手芸などを行っている。	○	広範囲な方に知っていただき、参加していただいたり協力や助言をお願いしたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価で改善の助言をいただいた項目はグループホームの水準を上げ、質向上のために1項目からでも改善する。	○	評価で改善の助言をいただいた項目はグループホームの水準を上げ、質向上させるため、1項目からでも改善したい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を行っている。会議の時にグループホームの状況を皆様に報告している。それに対して多分野からご意見をいただき、活かそうとしている。	○	皆様からいただいたご意見や情報を受け流すことなく検討していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	居宅支援センター、介護保険課、地域包括支援センターと常に連携をとり、相談したり助言をいただいたりしている。	○	問題や困った事があれば、介護保険課とか包括支援センターに相談して助言をいただくことも必要と思っている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は学ぶ機会がなくできていない。	○	勉強の機会があれば学び活用したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待は行わないと、全職員が認識している。	○	これからも精神的にも肉体的にも虐待は行わない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書にそって説明をしている。	○	不明な点があればその場で利用者・家族が表出できるような場をつくる。納得しているかを確認する。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情はきちんと受け止めている。検討会を開催し解決している。	○	どんな小さなことも受け止め検討し、改善していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ご家族に担当介護職員から報告の便りを送っている。広報誌も発行しており、写真と文章で暮らしぶりをお知らせしている。	○	利用者から家族に季節の便りを出すこともしたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からのご意見や苦情はきちんと受け止めて、検討会を開催している。	○	苦情など施設に直接言い難いことは、施設外の市介護保険課などに申し出ることができることを家族に伝える。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的(毎月1回)グループホーム会議を開催している。意見や提案を検討したり、勉強会をしたりしている。	○	定期会議以外にも、何か議題があれば話し合いの場を設けたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者・家族に合わせた対応をしている。1日のうちで職員の増減がないように、勤務時間帯を決め勤務調整しており、いつも同じ人員は確保している。	○	急変時の対応について時々家族と相談しておく。家族の思いの変化を把握しておく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職などによる欠員時、速やかに補充している。	○	いつも顔なじみの職員がいて、いつも変わらない対応をして笑顔のある穏やかな生活ができるグループホームでありたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設全体で勉強会を月1回開催している。施設外研修も交代で受講している。施設内での新人研修も組まれている。	○	職員が受けた研修を受講したり、必要な資格を習得できるよう配慮している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は交流はできていない。	○	今後は他のグループホームとの交流を持ちたいと職員は考えている。職員同士の勉強会や利用者が他施設の行事に参加したりすることを前向きに考えたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	バレーボールなどの大会に参加している。そのための練習を選手以外の人も自由に参加している。	○	職員の余暇活動としてビアガーデンなどを計画している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修などに交代で参加している。研修で学んだ事を職員に周知し共有している。	○	研修などには職員全員が平等に出る機会をつくる。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の思いを聞き、共感して受け止めるよう職員全員が努力している。	○	職員は時間をかけてゆっくりと話がきけるように調整努力する。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の現状、訴えなど、何でも気軽に相談していただけるような関係を築こうと努力している。	○	職員は家族がいつでも話せるような態度がとれるよう努力する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の関係、状況をわかり、一番ベストな支援ができるように話をしている。	○	本人、家族からしっかり話を聞くようにする。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、本人重視のサービスを心がけている。	○	本人に寄り添いながら、利用者本位のサービスに努める。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を家族の一員として生活を共にしている。	○	職員は本人の今までの生活で、身につけていることを教えてもらえるような関係をつくりたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係、状況をわかり、家族と共に利用者を支えている。	○	職員は本人の生活を家族にわかりやすく伝え、面会が増えるように支援する。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	情報収集をすることにより本人、家族の関係を知り、よい関係になるように支援していている。	○	家族の面会時には、職員とお茶を飲んだりしながら、本人や家族と在宅での話や若い頃や幼い頃の情報をいただく場を設ける。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今までの人生の中で大事だったものや趣味は、できる限り存続できるよう家族と共に支援している。たとえば、農業一筋だった方には畑の草抜きなどできるように、木彫りが趣味の方には粘土細工を、お好み焼きが大好きだった方には外食でお好み焼きを食べに行ったりなどしている。	○	農業一筋の人生だった方には草抜きなどできるように、木彫りが趣味だった方には粘土細工を、お好み焼きの大好きだった方には時々外食でお好み焼き屋に行ったりなどの支援をしていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者個々の性格、精神状態、身体状態などを職員は把握している。その上で喧嘩やトラブルにならないように努め、利用者には不安などの支障を生じさせないようにしている。	○	利用者のそばにいつも職員が居り、常に安心して暮らせる施設でありたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在、退去者とは関わりができていない。	○	退去した後も定期的に広報誌を送ったりして関係を継続していきたい。相談などはいつでも受けられるような関係でいたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを聞き、共感して受け止めるよう職員全員が努力している。	○	本人の能力に合わせて思いや意思を尊重したい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が今まで生きてきた過程を大事にしている。	○	本人の生活歴を職員全員で共有する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その方に合った生活をしていただいている。	○	一人ひとりのその日の精神的肉体的状態を、出勤時細かく把握して勤務につく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは本人、家族、介護職員、看護師などで担当者会議をして計画している。定期的にモニタリングしている。	○	意見や助言があるたびに速やかに検討する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は見直しをしながら、常に現状に合ったプランを作成している。	○	家族の面会時に、現在のプランが妥当かどうか意見を聞く機会をつくる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は毎日チェックしている。	○	モニタリング日以前でも気づきがあれば検討する。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特養と併設のため、状態により相談し、希望で変わることが可能であることを話している。	○	本人の希望に合ったところでの生活を支援する。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在あまり交流ができてない。	○	一か所づつからでも交流できるよう取り組みたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域支援センターとは交流があり、相談にのってもらっている。	○	グループホーム入所前の在宅時、関わりのあったケアマネジャーと話し合う。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在あまり交流ができてない。	○	グループホーム入所前の在宅時、関わりのあったケアマネジャーと話し合う。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、精神科、リハビリ、歯科、皮膚科などその方に必要な医療を受けている。	○	本人、家族からしっかり話を聞くようにする。家族に納得のいく医療が受けられるように援助する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要な方には家族と相談しながら精神科医の往診を受けている。	○	本人が穏やかに生活ができるように家族と相談し、必要ならば専門医療が受けられるように支援する。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護師がおり健康管理している。	○	看護師が毎日本人と関わりながら体調管理をしている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入所中の利用者が入院して退院する時は、情報交換して再入所できるよう配慮している。	○	提携病院とは気軽に情報交換できる。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については家族、医師と話し合っている。定期的に話し合うようにしている。	○	家族の気持ちは変わる事があるため、常に話し合いをしておく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族や医師と相談しながら、できる限りご家族の意向にそえるようにしている。	○	家族と話し合いながら、施設でできることについては支援する。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住居が変わり、本人の戸惑いを減らすため、事前の情報収集をしっかりとしておく。	○	入居後も情報交換を繰り返す。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人のプライドを傷つけるような言動は慎むように職員は注意している。	○	個人個人を人生の先輩として対応するように職員は心がけている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の都合に合わせた介護をしていることがよくある。	○	本人の能力に合わせて思いや意思を尊重したい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースで生活できている。	○	職員は本人に対して押し付けをせず、その人らしく暮らせるように心がける。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容院は本人や家族の希望にそったようにできている。	○	本人が以前好きだったことを、できるだけ取り入れたおしゃれや趣味の物を使うよう援助する。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力により、できることを一緒にしている。	○	自分もグループホームの一員だと認識できるような仕事をつくる。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好物は取り入れるようにしている。	○	好物が毎日の楽しみになるように援助したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	その人に合わせた支援をしようとしている。	○	本人が排泄の失敗を辛いことにならないように、さり気なく援助する。機械的な作業にならないように、その人に合った援助をする。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日を決めず、その日の本人の希望や都合で決めている。	○	入浴はその人の希望や、入れそうなタイミングの時に入浴できる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その人のペースで午睡や就寝時間を決めている。	○	その人の今までの生活習慣をできるだけくずさないように支援する。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	常に利用者と共に生活している。得意な部分の役割もある。レクリエーションでの外出も多くしている。	○	本人の生活歴や趣味や好みなどを家族から情報をいただき支援する。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は小額のお金を所持している。	○	常に自己管理のできない方も、買い物時に自分の財布から支払いができるようにさせてあげたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の機会が多くあるようにしている。	○	本人のなじみの所へ行ったり、好物を食べに行ったりできている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食など本人の食べたい物のある所に行けるように考慮している。個別での支援もしている。	○	家族と相談し援助を受けて実現できるよう支援する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に手紙を書き、郵送したり手渡ししたりしている。	○	季節の便りを定期的に家族に出せるように取り組みたい。また、家族からも便りをもらえるように働きかけたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者の多い利用者と、ほとんどない利用者がおられる。	○	家族やなじみのある人に職員から近況報告をするなど、面会に来ていただけるように支援したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や虐待は行わないと全職員が認識している。	○	身体拘束、虐待などは絶対にしない。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことは職員全員が把握している。	○	夜間以外はいつも玄関は開いている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者はそれぞれ自分の好きな場所で思い思いに過ごしている。職員は利用者が現在どこで何をしているかいつも気にかけている。	○	職員は本人の居場所について危険察知した時以外、自分の好きな所に居てもらえるようによう配慮している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	必要な物品が必要な場所に置かれている。職員は異食などをいつも気にかけている。	○	注意の必要な物品について知り、事故の時の対処もわかるようにしておきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員は利用者の個々の状態を知って事故防止に取り組んでいる。	○	事故を未然に防ぐため事故防止について、話し合いの場を設ける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時のマニュアルをつくっている。24時間対応の看護師もいる。	○	グループホームの勉強会を定期的に関き、スタッフが適切な対応ができるようになりたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の避難経路を分かっている。	○	定期的に避難訓練をして非常時に備えたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の面会時には利用者の現在の状態について話をしている。	○	面会の少ない家族に現在の状態を時々お知らせするようになりたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状態を職員は知っており、変化を見落とさないように心がけている。	○	急変時の対応などについて勉強会を開き、職員が的確に対応できるようにしておきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服薬の内容は職員は知っている。注意書きなどをファイルしている。	○	服薬確認の徹底をし、誤薬を絶対しないように取り組みたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘について職員は注意している。また、便秘の予防についても工夫している。	○	職員の勉強会にも取り入れたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎回の口腔ケアはできている。。	○	歯科衛生士の定期検診も検討したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は1人ひとりの好みや食べる量を知っている。水分量も注意している。	○	状態の悪化で食べられない利用者の対応を考えたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてのマニュアルがある。	○	職員は時々既存のマニュアルを読み、実際に使えるようにしておきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチンが清潔を保つように心がけている。食器類の乾燥や食器類の薬剤消毒ができています。	○	定期的に冷蔵庫の整理、消毒を継続したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	特養を併設のため、玄関らしくない。自由に出入りはできる	○	特養の併設でグループホームはあまり知られていないため、広報誌などで地域の人に知っていただきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、その季節の行事を取り入れたりして、季節感を味わえるように工夫している。	○	花を生けるなどは利用者と一緒に会話を交えて行い、季節感を味わえるように支援する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者はそれぞれ自分の好きな場所で思い思いに過ごしている。	○	居室以外でも誰にも邪魔されずに一人で居れる場所を確保してあげたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が自宅で使っていた物が持ち込まれている。	○	古い物、汚れた物、壊れた物、破れた物などでも本人にとってはとても大事な物だとわかってあげ、共に丁寧に扱う。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一日何回か室温、湿度のチェックをしている。換気も毎朝行っている。	○	その方にあった空調調節ができるように気配りができるようにする。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分自分で好みの場所で好きなように生活している。	○	下肢筋力低下の利用者に対してリハビリになることを取り入れたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの能力に合わせて、得意なことができるように支援している。	○	生活の中に混乱が生じて戸惑ったり、怒りになったりしないように本人の内面がわかっておくよう努力する。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにはプランターを使って季節の花を栽培している。利用者が当番で水やりをしている。畑もあり、野菜作りをしている。	○	プランターの花を見て楽しむだけでなく、切花を育てるスペースが欲しいと思っている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設の中に閉じこもらないように外出や行事を積極的に実施している。利用者の希望を重視している。  
 外食では、その人個人の好物を取り入れたり、希望を表出できる方は意思を尊重し、その希望をかなえてあげる。家族にもその都度連絡している。  
 家族と過ごせる時間がつくれるように心がけている。  
 洗濯・掃除・買い物など利用者といつでも一緒にを心がけている。